



『人生ピンチヒッター』3か条 1. 『人に接する呼吸を得ている者』 2. 『性格の悪くない者』 3. 『無規則で始める勇気と胆力を』

# 希望

岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 山本ひろみ

7月で巣鴨のカフェは、1周年を迎えました。「忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出す」私は、樋野先生の著書を通してこの言葉に初めて触れました。最初のがん手術から20年以上、私の魂が癒され涙が溢れ、苦しみが「希望」へと変わったことを思い出します。この1年たくさんの方に力を頂きながら、カフェを開業してきました。今コロナ禍、多くの方が先の見えない忍耐の時を強いられています。きっとこの「忍耐」もいつか「希望」へとつながるということをカフェを通して学びました。それぞれのカフェが試行錯誤し、今可能な形での学びの場を保ち続けようとしています。私もできる限りの力をつくしていきたいと思っています。もし苦しんでいる方がいらっしゃるなら、どこかのカフェにつながっていただきたいと思います。共に学び合い、力を分け合えたらと思っています。カフェを開ききっかけを下された樋野先生や未熟な私をこれまで支えて下さった皆様に感謝申し上げます。



# 再開

東村山がん哲学外来  
メディカル・カフェ  
大弥佳寿子



コロナ禍で年中行事や様々な季節の催しがなくなって久しく、気づけば8月を迎えます。暫くお休みしていたカフェですが、会場をお借りしている公共施設の感染症対策に従い、7月より再開しました。

密を避けるために、室内の定員も30名から15名の半数となりました。そうした中、以前から参加して下さっている方が、「もし参加希望者が15名を超えるようでしたら、私は積極的に席を譲ります。今回どうしても参加したい、と願っている方を優先して下さい」と申し出て下さいました。お気持ちが嬉しかったと同時に、その方も大切なカフェの参加者であり、是非参加していただきたいと思いました。当日は定員いっぱいに至らず、集まった皆さんと再会を喜び、対話の時をもつことができました。

がん哲学外来カフェは、「来られた人を温かく迎え入れ」、そして「困っている人と共に困る」(犬のおまわりさん)であることを、久しぶりのカフェの場で静思しました。

編集：丘の上のカフェ・シャローム  
石井瑠美  
連絡先 TEL 03-3943-1879  
後援：一般社団法人がん哲学外来



# 東久留米読書会

目白がん哲学外来 森尚子



読書会が始まったのは、2007年12月ですので、今年で13年目になります。

毎月、新渡戸稲造「武士道」内村鑑三「代表的日本人」を交互に、前もって決められた方が音読し、その後、質疑応答の形で進めています。

私は、2017年2月、丁度2冊の読み初めから参加しました。そして、今年の8月、3年かけて2冊を読み終えます。

読書会は、本の内容のみならず、様々な考えや想いを語り合う、学びの場でもあります。



先生の言われる、『人生邂逅の三大法則』「良い先生」「良い友」「良い読書」が揃っている場であると言って良いと思います。これからも、二冊の本を繰り返し繰り返し、深く読み続けていきたいです。読書を通しての「がん哲学外来」でもあるからです。



勢ぞろい樋野動物園

●まだ涼しかった7月の朝、高架下の小さな流れにゴイサギを見つけました。